

聖書の一つの賜物は、はるか昔の聖なる時代からの物語である。イエスが存在されたはるか昔は、今なお世界を揺るがしている人類のさまざまな現実を探求し始めるには安全な場所（時代）であった。

よく言うておくが、聖なる時代、聖なる場所に人々は存在していた。人々は、人間が行うすべてのことを行っていた。人々は働き、眠った。人々は友と食事をした。先祖からの伝統を守った。はるか昔に人々は、地域社会と神との関係に、正しい足跡を導くための真理に思い焦がれていた。

そしてこれらの人々が真理を見出だした時、その真理を守るために大変な努力をした。それ以来、人々は確かに正しかった。これは真実であった。私は、人々がどのように自分たちのアイデンティティを形作り、その事実を維持するかの調査を行った。自分たちの事実についての解釈を、人々が徹底的に守るのは驚きである。ある事実はすべての価値がある。ある事実は全人生の価値がある。ある事実はそんなに重要ではない。人間の私たちは、どの事実が一生涯大切であるのか、どの事実が真実ではないのかを見出だすために、悲惨な働きをする。

私に、今はテキサスにいる友達でもある隣人がいる。世界感染年の別離の後、彼女は家族に会う為、テキサスへ行った。そして恐れている。家族の真相は彼女が共有できない政治的忠誠心がある。家族は彼女を嘲弄したり、屈辱したり、除け者にしたりして、自分たちの事実を守ろうとする。彼女は恐れて母の家へ行った。家族が彼女を隠喩的（メタファー）絶壁から突き落とそうとしているの知っていた。異なった事実を持っているからだ。

それが家族である。みんな同じ外観であり、同じように語り、同じ食物を食べる。

この家族は、真相を彼ら自身に巻き付けている。彼らは安全であると感じているのだ。違った考えを持つどんな人でも、排除する限りは安全であると思うのだ。なぜなら私たちは視覚で思考する人間であるからだ。誰が異なる意見を持っているのかを判断する一番簡単な方法は、異なった外観からである。排除される人々は、異なった髪形にカットする、異なった服を着る、はるか昔に異なる所からやって来た先祖の鼻の色を示す。テキサスのこの家族は、これらすべての尺度を使い、異なる考えを持つどんな人でも排除する。この家族（テキサスに住む友人の家族）は、成長していたイエスの隣りに住んでいたかもしれない。

今もこれからも、人々が発見したどんな真相も人間は保護するだろう。特にその真相が物語であるなら、人々は安全性とアイデンティティを確立する、特にその真相が壊れやすいものであるなら。その真相は世界のすべての人に正確に描写されていないかもしれない。

イエスは古代ユダヤ人であった。ユダではそれが事実であった。エルサレムは世界の中心であり、古代ユダヤの儀式と宗規は正しいとされたのが事実であった。

この宣言を聖書の部分で何度も何度も聞く。なぜならユダに隣人がいた。サムリア。サムリア人の儀式と宗規は少し異なっていた。学術的には、古代ユダヤ人とサムリア人は同じ民族である。彼らは同じ先祖を持っていた。同じような外観であり、同じ言葉話し、同じ食物を食べていた。この状況は私の友の家族とたいへん似ている。私の友は、私の家から一つ下がった通り住んでおり、そんなに違いはないが異なる習慣にも慣れている。彼女には首相がおり、彼女の家族には大統領がいる。何年もの別離でも、私の友と彼女の家族はみんなアメリカ人であるが、異なる政党を支持している。異なる政党であるが、世界と同じ政治体制であると推察する。このようなユダとサムリアの違いを考えよう。

サムリア人は、異なる宗規であるが同じ様式で礼拝をしていた。例えば、エルサレムの神はシオンの丘に御座しており、サムリアではゲリジム山(Mt. Gerizim)であった。

従って古代ユダヤ人とサムリア人が宿敵であったのは明確である。彼らはしばしば戦った。彼らは違いをすばやく指摘した。そしてある日、イエスがサムリア人とはよい隣人になれると示唆された。驚きだ。それは狂喜じみた話だ。人々は立ち上がる。人々は何かを絶壁から投げ捨てたくなる。

これは少し民族意識のようだ。人種差別のようだ。

人々はこれらの狂喜じみた案を廃棄させるために、絶壁を探し始める。

聖書を読むと、はるか昔に、聖なる時代と聖なる場所に民族意識が存在していた。人種差別であったように聞こえる。このテーマは、聖書の物語に多く見られる。今日の日課（ルカ伝4:14-30）は、このテーマを繰り返し唱えられている。

例えば、イエスは言われる。「エリアの時代に予言者エリアは大飢饉の間、未亡人を庇護した」。聖書はエリアがシドンに存在した以外は、未亡人の名前や詳細を残していない。聖書は述べている。シドンの人々は、ノア（アダムから10代目の子孫）の子孫である。シドンはエルサレムから徒歩1週間である。エリアは古代ユダヤ人ではなくて、異邦人を養っていた。エリアは人種を越えて活動していた。

(イエスの話を)聞いている人々が少し不快になったと、あなた方は感じるだろうか？

イエスは言われる、エリシャの時代、予言者エリシャはハンセン病のシリア人を癒した。シリア人は異なる外観であり、異なる言語を話し、異なる食物と食べていた。シリア人は、ユダヤ人が守る同じ習慣あるいは真理によって暮らしていなかった。エリシャは民族意識を越えて活動していた。

人々は(イエスの話を)聞いているうちにひどく怒り、立ち上がる。

大事なことで、はるか昔、聖なる時代と聖なる場所で、イエスは会堂に入られた。それはある家族の夕食時に踏み込んで行くようなことであり、その家族への挑戦である。イエスは人々に告げられた。異なる外観、異なる言語、異なる食物と食べる人々は異なっている。しかしこれらの異なった人々は、神の癒しに含まれている。イエスは御自身の家族が住む郷里へ入って行かれた。人々はイエスがヨセフの息子であることを覚えており、一つの民族に属する事実をイエスに思い起こさせる。イエスは彼らが守っている事実(ユダヤ人のみが救済される)に挑まれた。なぜなら、どんな民族の人々の事実より、神がはるかに大きいからだ。

今、注意。光りを点滅させ、警笛を鳴らす様子を描いてみよう。注意、注意、注意。

キリスト者はこれらの物語をヘブライ語聖書(旧約聖書)で読み、心地よい家族の集まりに安樂し、互いに言葉を交わした。「ユダヤの人々を見てごらん、人種差別主義者だー」。

そしてすべての私たちは、どのようにしてそうなったのか(ユダヤ人選民意識)を知る。キリスト者は、聖書に出てくる人々と同様に、自分達の真理を守るために破壊的になった。キリスト者は自分の真理を守るために、異なる外観や異なる言葉を発するどんな人も、排除し、嘲弄し、屈辱し、処罰し、抹殺するのに長けていた。ユダヤ人の人々は、そのことをあなた方に告げることができる。

これは人種差別主義者ユダヤ人々の物語ではない。これは人間が真理を守るための物語である。これは人々が恐れるなら、人々は隣人を絶壁から突き落とす警告である。

これはともあれ、イエスが真実を述べられた物語である。

イエスは、すべての人々、すべての被造物は神の癒しに含まれると真実を述べられた。神は私たち人間が理解するより、はるかに偉大である。

今日の物語では、私たちに二つの方向を教えている。
その一つは、真実を述べるためには恐れないことを求めている。
耳を傾けるすべての人々に、神の偉大さの真実を述べるために。
神はどんな民族やどんな人種も越えておられ、その真実を述べるために。
神は真実であり、偉大である。
イエスに従う私たちは、神の真理を宣言する使命が与えられている。

そしてこの聖書の箇所にも、二つ目の示唆があると思う。重要な警告である。
会堂にいるこれらすべての人々が、イエスが教えられたすべてを聞いて驚いたのを
覚えているだろうか。覚えているだろうか、その数分後には、人々はイエスを崖から突き
落とそうとしたことを。なぜならイエスの言葉は、彼らを脅かしているからだ。

絶壁から突き落とすと脅かしているのは、私たちの誰であるのか？
(文字どおりなのか、あるいは隠喩的(メタファー的)であると望むのだが)
なぜならキリスト者は危害を加える。その人が正しくないと感じるなら、私たちは人々に
危害を加える。それによって安全であると感じるからだ。
私たちはユダヤ人に行った。私たちは先住民に行った。
私たちキリスト者は、日系カナダ人に行った。
世界中の民族は、自分達が信じる真実を守るために、互いに危害を加え続けている。

これは、はるか昔の、聖なる時代と聖なる場所からの聖書の一節である。
従ってこの時代に、この場所で、弟子の働きをよく描写している。
私たちは暴力や危害を加えずに、真実を保持することが促されている
人々を追い出すか、崖から突き落とそうかと考える時、注意を払う鍛練である。
そしてまた、真実を恐れずに保持するためでもある。
従って私たちは、過去に揺るがした危険な事実を述べ続けるのだ。
そして今、いまだに宣言させる必要がある。
真理は神の癒しであり、すべての人々とすべての被造物のために存在している。

(文責長澤猛)